Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう

静岡新聞

2020年4月27日朝刊

回答欄が足りない合は裏面に記すこと。

右の記事を読んで、問いに答えなさい。

①全国高校総体中止の記事を読み、具体的な根拠を挙げつつ考えるところを述べよ。

[　　]

②高体連のインハイ中止は、高文連・高野連にも影響を与えると考えられる。自分の所属している部活動の今後の対処を予想し、どのような心構えをしておけば良いか、自身のメンタルを今のうちに防御しておく手段を考察せよ。

[　　]

③【全国高校総体（夏季大会）の歴代開催地】の表を参照し、データから読み取れる事象を考察せよ。

[　　]

全国高校総体中止

新型コロナウイルスの感染拡大で夏の高校スポーツの祭典、全国高校総体（インターハイ）が26日、史上初の中止に追い込まれた。政府の緊急事態宣言で部活動が制限され、全国高等学校体育連盟（全国高体連）が「断腸の思い」と表現した苦渋の決断。3月の全国選抜大会から揺れる高校スポーツ界の現場に落胆や困惑が広がる中、混乱などを踏まえて早期判断を支持する声も出た。

苦渋の決断 揺れる部活

進路不安で支持の声も

陸上競技が開催されるはずだったエコパスタジアム＝袋井市（本社ヘリ「ジェリコ1号」から）

「この決定は夢を奪ったわけではない。安心・安全、命を守ることを手や関係者が集まる五輪とはスケールが大きな違いがある」と指摘された。26日の臨時理事会後、全国高体連の岡田正裕会長が語った。

感染リスク

東京五輪・パラリンピックの延期が決定した翌日の3月25日に高体連は「日本以外の選手や関係者が集まる五輪とは大きな違いがある」と指摘された。この期間は重く、代替プランの可能性も消えた。

県内指導者「選手を思うと無念」

全国高校総体の中止決定を県内の指導者も複雑な思いで受け止める。空手の相手子団体で2度目の全国3連覇が懸かっていた御殿場西の細矢真人監督は、「全国選抜が中止となり、夏に向けて切り替え気持ちを一つにしてきた。選手の気持ちを考えると無念。スポーツ推薦を狙って結果を残そうとしていた選手もいるはず」と慰念し「何とか前向きに捉え、今後の人生につなげてほしい」と話す。

昨夏、登山の女子団体を制した富士の踏戸明監督も「スタートラインに立てない選手に、『全国選抜が中止』という言葉がない。本人たちが気持ちを整理できていない。生徒が悩んでいるのを見ると、世の中の情勢を考えれば仕方がない」と冷静に受け止め、「多くの人に支えられて生活が成り立っている」と大会の意義を強調。中止について「むなしさを感じるし、努力がまさに水の泡と、悔しさを言った。

ある卓球強豪校の監督は「選手が一番不安なのが将来の進路。大学の推薦枠の資料にできないか検討する」と「救済策」の動きも。一部である。全国高体連の競技専門部関係者は「早期に判断を出すことで現場が次の道をしっかりと探すことができる」と効果を期待。全国高体連は都道府県単位で部活動の成果を発表できる場を用意するよう検討を要望した。

救済の動き

現場レベルでの意見はさまざまだ。学校対抗で昨年まで男子3連覇の日大豊山（東京）水泳部の竹村知洋監督は「生徒は『インターハイ』という存在に支えられて生活が成り立つ」と早期の決断を歓迎する。都道府県レベルでは高校3年生だけの記録会を実施した大学の推薦枠の資料にできないか検討する。「救済策」の動きも。一部である。全国高体連の競技専門部関係者は「早期に判断を出すことで現場が次の道をしっかりと探すこと」と効果を期待。全国高体連は都道府県単位で部活動の成果を発表できる場を用意するよう検討を要望した。

命守ること選んだ

全国高体連・岡田正治会長の話 夢の舞台を奪ってしまったわけではない。この決定は夢を奪ったわけではなく、安心安全、そして命を守ることを選んだ結果だ。

全国高校総体中止判断のポイント

一、21府県に分散して実施が難しい。

一、安全に部活動ができる状況にないこと。

一、安全に部活動ができるような環境、成果を発表する場の設定を検討する各都道府県高体連などに求める。

延期論も一部で浮上したが、関係者によると26日の理事会に出席した感染症の専門医から「過去のパンデミック（世界的大流行）に併せて考える例の広域開催となり、インターネット上のクラウドファンディングで寄付金を募って資金繰りにも腐心。「相当無理をして、やっと開催できるというまぎわのりだった。北関東4県を中心に行うはずだった高校生の姿があることは誠ほど承知している。この決定は夢を奪ったわけではなく、安心安全、そして命を守ることを選んだ結果だ。

高野連は5月20日に第102回全国選手権大会は全国高校総体と同時期に予定され、夏の甲子園への切符を懸けた地方大会は6月20日に沖縄県でスタートする予定だ。新型コロナウイルス感染拡大の影響で今春、第92回選抜大会が史上初めて中止となり、全国9地区の春季大会と47都道府県予定の春季地方大会（準々決勝後に打ち切りの沖縄県を含む）は取りやめとなった。高野連は、最近では5月中旬に全国高体連事務局を訪問したそうで「相互の全国大会などについて情報交換を行った」とした。

日本高野連「参考にする」

日本高野連は26日、全国高体連が全国高校総体の中止を決めたことを受け、夏の大会の運営委員会を開いた。開催可否などについて話し合う見込み。

ただ、開催可否の判断に「このたびの決定が直接影響してくるかは分からない。われわれが協議を重ねていく上で、高体連の決定に至るさまざまな検討内容を参考にさせていただきたい」とコメントした。

高野連は「本日の苦渋の決断は全国高体連が下した。当然尊重すべきであると思うとした。

兵庫県西宮市の甲子園球場での全国選手権大会は全国高校総体と同時期に予定され、夏の甲子園への切符を懸けた地方大会は6月20日に沖縄県でスタートする予定だ。新型コロナウイルス感染拡大の影響で今春、第92回選抜大会が史上初めて中止となり、全国9地区の春季大会と47都道府県予定の春季地方大会

全国高校総体（夏季大会）の歴代開催地

年	地域	開催都道府県
1963	北信越	新潟ほか13県
64	東海	愛知ほか13県
65	九州	大分ほか5県
66	東北	青森ほか3県
67	北信越	福井ほか6県
68	中国	広島ほか1県
69	関東	群馬ほか3県
70	近畿	和歌山ほか9府県
71	四国	徳島ほか3県
72	東北	山形ほか6都県
73	東海	三重ほか3県
74	九州	福岡ほか1県
75	関東	東京ほか3県
76	北信越	長野ほか5県
77	中国	岡山ほか3県
78	東北	福島ほか3県
79	近畿	滋賀ほか5府県
80	四国	愛媛ほか3県
81	関東	神奈川ほか7都県
82	九州	鹿児島
83	東海	愛知ほか3県
84	東北	秋田ほか1県
85	北信越	石川
86	中国	山口ほか4県
87	北海道	北海道
88	近畿	兵庫ほか5府県
89	四国	高知ほか3県
90	東北	宮城
91	東海	静岡
92	九州	宮崎
93	関東	栃木ほか2県
94	北信越	富山
95	中国	鳥取ほか4県
1996	関東	山梨
97	近畿	京都
98	四国	香川ほか3県
99	東北	岩手
2000	東海	岐阜ほか1県
01	九州	熊本
02	関東	茨城
03	九州	長崎ほか1県
04	中国	島根ほか4県
05	関東	千葉ほか1都
06	近畿	大阪ほか6府県
07	九州	佐賀ほか1県
08	関東	埼玉ほか1県
09	近畿	奈良ほか5府県
10	九州	沖縄ほか1県
11	北東北	青森、岩手、秋田、宮城
12	北信越	新潟、富山、石川、福井、長野
13	北部九州	大分、福岡、佐賀、長崎
14	南関東	東京、千葉、神奈川、山梨
15	近畿	和歌山、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良
16	中国	岡山、鳥取、島根、広島、山口、和歌山
17	南東北	山形、宮城、福島、和歌山
18	東海	三重、岐阜、静岡、愛知、和歌山
19	南部九州	鹿児島、熊本、宮崎、沖縄、和歌山
20	北関東	群馬、茨城、栃木、埼玉、静岡ほか16府県

※全国高体連資料による

年　　組　　名前

作問者：NIEアドバイザー　實石克巳（静岡高校　教諭）

（高校／国語）